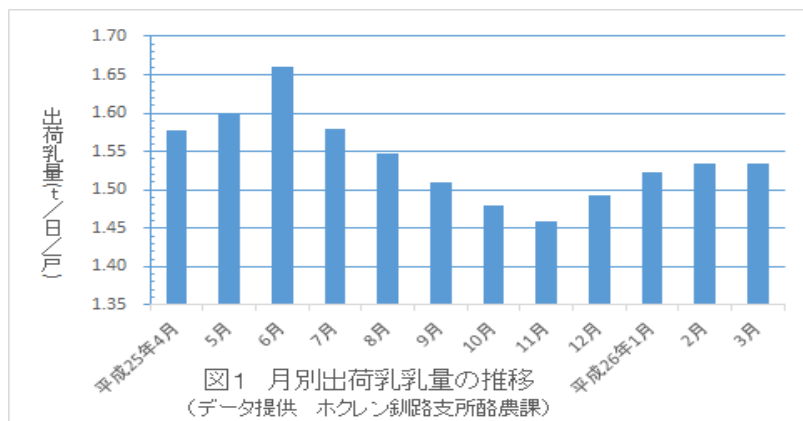


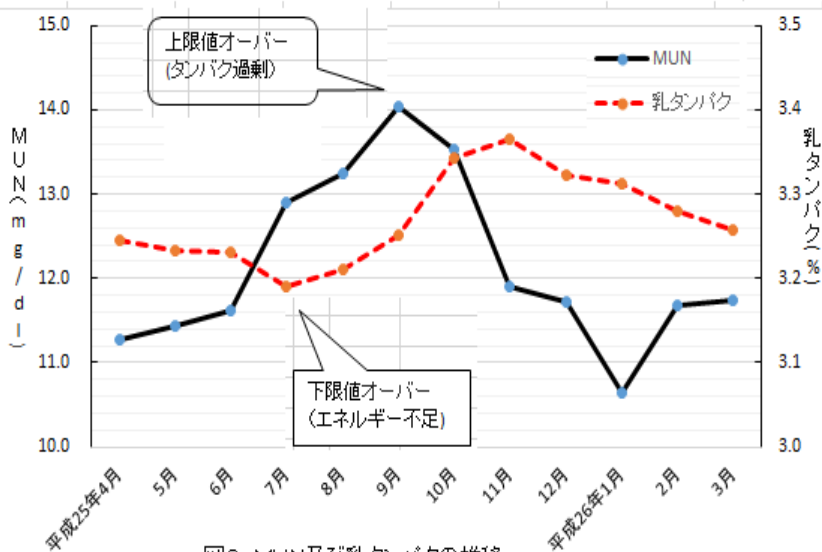
## 夏に備えた飼養管理のポイント

### (1) 月別出荷乳量



当地区の出荷乳量は、例年6月にピークとなり、その後10月頃まで暫減する特徴があります(図1)。その要因として、分娩頭数の多少や、暑熱の影響、放牧期と舎飼期での採食量(乾物摂取量)が関

### (2) バルク乳成分



係していることが伺われます。  
バルク乳のMUNは、7月以降上昇し、9月に最大になり、乳タンパクは夏期間低下する傾向があります(図2)。  
この二つの成分は、牛群が摂取した栄養バランスが適正であるか否かの指標となります。適正値以上

図2 MUN及び乳タンパクの推移  
(バルク乳 データ提供 北海道酪農検査協会釧路事業所)

表1 MUN及び乳タンパクの過不足の主な要因とその対策

	要因	乳牛への影響	対策
高MUN・低乳タンパク	タンパク 摂取過剰	痩せる・受胎率低下など	低タンパク・高エネルギー飼料の給与
低MUN・高乳タンパク	エネルギー 摂取過剰	過肥・乳量減少	高タンパク・低エネルギー飼料の給与
高MUN・高乳タンパク	エネルギーとタンパク過剰摂取	過肥・乳量減少・繁殖障害 など	濃厚飼料給与量を減らす
低MUN・低乳タンパク	乾物摂取量の不足	痩せる・乳量減少・疾病多発 など	粗飼料と濃厚飼料の給与量を増やす
	適正值	MUN 10~14mg/dl	
	(バルク乳)	乳タンパク 3.2~3.4%	

のMUNは、タンパクが無駄になっている事を、適正値以下の乳タンパクは、エネルギーが不足している事を意味します。両成分は、高すぎても低すぎても乳量ばかりでなく乳牛の健康や繁殖に悪影響を及ぼします(表1)。  
MUNと乳タンパクは、年間を通じ適正値の範囲内で一定に推移

### (3) 今後の対応

- していることが理想です
- ① エネルギーとタンパク質のバランスのとれた給与。
  - ② ミネラル類と塩の給与。
  - ③ 放牧草の生育状況や利用状況に合わせ、サイレージやビートパルプなどを給与する。
  - ④ 放牧地での水槽の設置とウォーターカップ吐水量(4~6L/20秒)を確認し新鮮な水を飲めるようにする。
  - ⑤ 換気扇や大型扇風機等により牛舎の風通しをよくする。
  - ⑥ 暑い日は日中の放牧を避けるか木陰のある牧区に放牧する。
  - ⑦ 飼槽、ウォーターカップや水槽を清潔に保つ。